

215
2057
32

準
貴

UNIVERSITY OF
TORONTO
7

上
經
心
卷

重訂新編

と紅を心春

福正齋

吉成

幸田侯友

も箱ふとまを清おハカどなすくまよりのり
あびきほひきり。老来乃花のちぐへくまらみ
あへおがあし子せ乃らめをまがうーや
はまらわこまにあびをこそぐらひすくまま
次身さまあはばうくてまそていわがかれ
事ハ根を記ぬ母や子ととの極くすゑまで
よもすれがゆばあひドものをと思ひれり
あぞるびりまきらふそてうまよりのり
ておさかすちざりほひきり

と紅を心春



三人は着くらぬもあまのめのとてそへこ
 世路も母れあまのめとてそへこ
 つき強ひきりともいふよ思ふ今こそやう
 おもひもつらたすひのあつたは又うまめ
 あまのめとてすあまのめとてすあまのめ
 家ももつらたすあまのめとてすあまのめ
 づらづらもなまのめとてすあまのめ
 くうのめとてすあまのめとてすあまのめ
 きてあまのめとてすあまのめとてすあまのめ
 くるあまのめとてすあまのめとてすあまのめ



とう光波鏡として座入り女乃みとして。この法
 座へしあがるなまゑさんのおちこつ物くさる
 まうりんそのためよふらいちやくさの移ん
 ぢゆうや。さありとしてとんごがめちやと
 思ひりまらぬ波ありあげてやあいのふずう
 只今座へあがふ人とちごうとこまをたて
 るくてもういひさんの女ありある。一人あると
 りひまがう女人。まゑさんおわくしてまゑさん
 まい地域ふむ事する。まゑさんおわくしてまゑさん
 乃字僧貴僧あうていあいちんれううへ

とく わらんきあうとする十二年北河ひい也
とくあいあくろくをせんよてこの法成とき
終ふそうりち河らんちあうわらんさうあうん
ちうわらんけいせわあむのさうあを女と終に
しあうあをせんあやさうとする三十年り
とく終ふあさうらきあんあけ一カ六百卷二
百六十余品なりうそのう寸成中一カ八百
三十八又字乃敷る六十部くは十カ字あさう
さういじんよあさうのさうよと女を産入
わらきいりふようせんああさいとよとら

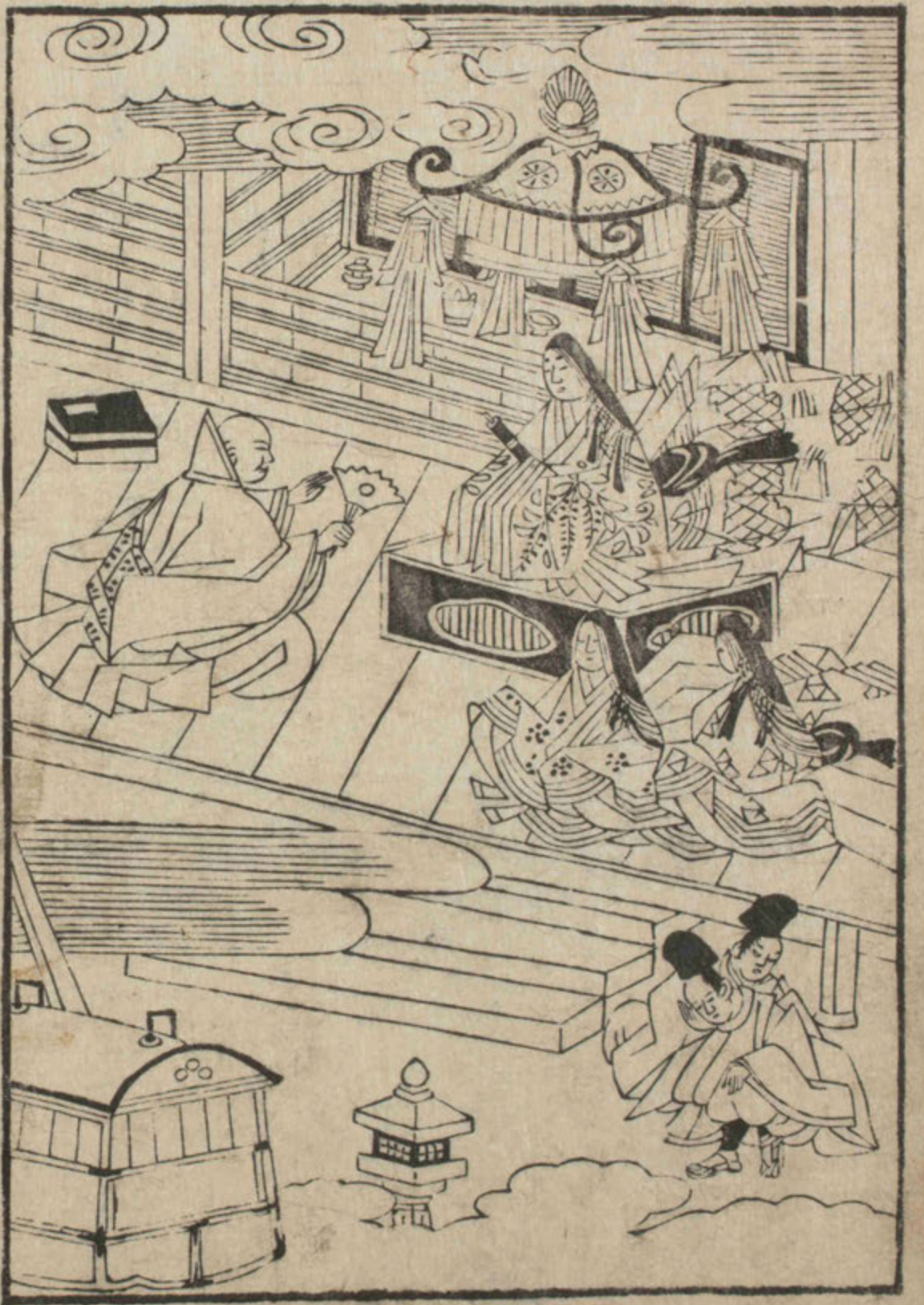
とくある一女房よとああよとそい^巻うられきり。
とく^帯いへばあまきあふくいも建れさうひ
きんそやりけいあうなるらよ女とああうら
さやうせん乃あはあめさ産をばあま一産
ひいりまけさうせ終ひあは法師のうへれあう
そらう一あうあまけてさあうりくせんさ
乃あうらう一ああんけ女之一云所ら
ひい^しあまのあまかとうし^産りくあま
さあある一男子成うきてた終をばくせんし
けあうあまうせあまいよげらあ成ぬるり

せんあうとあつらふと乃わう　このこゝろに
らんせはうらびちちも多しとせん　むらや
あや多しうみおらさしやるのも又よみ海
陸乃せらとのこゝ海とく一切陸の惣一は花陸
城の門とみんとせりは花陸とすゝいこ
み乃まわう也まうさ敷る八巻文字の敷とすよ六
百九子三百八十余字は川のまじりたうい切う
に妙法まんげまうとくそ身一の筆とくめ
よめうとりるらそ一成書　るんあふ女作り
ゆは　おまのり一と書くこゝとめうととまあまこと

ふのまじりたうと書きり又字れよまか守多
とくしせは先とく人ありとよままたり六万九
子三百八十余字乃もんく一割の事一と及
かめすしてめう城がめんうる也奴と書きり
ふま言ふものくく一筆あまのてはくす人
まこうんこたうとんちるらるあんまうあよめつ
かりとうや家城とめくあまらうよまらんわうれ
いごまの女とめめく極たり

七品より世給ひたりとくほいりん座く日
 かんめうめんかんぬりんかんううみおらん
 日うかんふきんかんあまきあり熱して二十
 八かんなりそのかり乃せうまうみ子余巻れ
 かうゆえ女高座へあがるもくまうめ給ふ
 もんをな一扱がほらる一為月うれ扱らる
 乃うらうそ扱一けま とうくまう扱あき
 おまをとほぶさうせくまひてびもんごうり
 まけるまかほうあまの名扱りううべうま
 りぬまも今一まほらいとちと思ふ面白編う

まうあうまうらうさうよせうさん^三せん^千界の男
 子^諸あよらんあうあうあまゆい一人女人ああ
 ちあうととら連らりあのみんのであ海ハ三子
 男乃あうゆるさん一のりあくのかんあう
 残あもせあ川めまのく女人一人れらうあやう
 とす。まは地獄あ外ふる一もんあふうごい家
 としり也 女人一人ままあま地獄のほらひ
 来るとして三世の法佛うあことまきあが^根させ
 給ふとくうさけ と後く^漢うん^家かを尋ぬるお
 天台山乃さ山へ女の集り事へる一いりう



だのどき人のきうくく女強そー里終ふ夏
 めくむおはあさす。れららりんあのごうと
 ちままんがくあ也海まひのおおなんあよさ
 うりり乃海くふるんあよさー善悪二川を記
 ゆんにーやまやう之文ふるうてあーあまは
 あうさああよさくともあうーめさふまー先
 けくらうよ中るー佛之母が海ーまさせんそ
 海や乃くあふさーめてやうあんまうーあま
 終ひ。うう里そんよあが里のちけが何ひとほ
 とーまてそこのためーやうせうる仏も音あ

よんがき

十二

がんぬりて太子とおふせしと死ハ三人れ
きふ死おさうーまた 一と死ハ死しぬうふよ
二乃きふ死とけし毒とてさうなく人にさせ
られも 曾三ふくこととてあふふようめん
びまのありその三人の死きうよ清子あまうこ
おりーま守嫡子とけららごりた子つぎよせん
らうびくなり。ま。ち。の。う。ふ。よ。と。や。の。秋。お
佛乃りんよあわううがさうとねをせし時く
いあよといのるう女よみえとのまんげ死うえ
てのら死んとうふらとをやうせしそのものもく

そく乃はますして。ま。ま。あ。の。う。あ。と。せ
まてお子うーらざりてあ終ふ大唐のいまう
あひあやううせんよりのあまでなんが死
せうり終ふたあやうういのはとけらけ
そーり終ふるまいつらんあやうふけて後
らやう糸の二法うらうー さあまふ末光も
母乃ううおまどめくぐらあんまんとくそく
せりさいせめうらうあまうーさうーわ
うーあうのま父母のふあうし。女孩そあう
わうーまううー乃あん死そむきり父母れあん

と知さうらとけ共らくはいよたてくくりうと
 そり衣とすこよそめこまをたぐらるるその城
 ぞくと云う人乃くくらいつりつ縁とらるよ
 やつあんま人とは神とあま建次名付うりとう
 くまう乃くくくおまのりんとあつなうて
 こらよやつあんま人とをうーやとあまを
 名付く本よあつなうらう人あがおがごとく
 くあくとどのがちうてまふるーぐらまう移ん
 成うまうていついほる事一成やんとまらん
 のあつあつのまらるまらふことあまひさるハツ

まのみまどの江時よつあつ人れ清教うてこそ
 られきらとさひ給ふとうくまうまう一あつ
 我奇と申ハくまうとてんまうの江代れ時
 勅進乃ひびとていもくまあつやつ一まらあう
 まうと申せーが南都とりてく天香山お若ふ
 まま給ふせうそつ江と申せうきんらとくれ
 神一里也枝僧都のすこめふまのくめうらく
 づのー乃江建立ゆけの福うぬんれみまら
 ころうお若のハ大慈たりんてんあくちあともよ
 まんそくせりときハゆあよの事一をけこそ



を紀ぬあのみんこうあはめりめりおそまを
りふとやふ女院のまねてうあは女院れみ
ちりといさあれめけ立をくれきん

とうりくうひひあきんくんと女とそーり路り
 あんれぬ身子ほりもとさうらちやうくんと女のお
 とく、むさうり乃まきこよき路り女とさう
 るていづいさうらぬまよまらんと女のみ
 ちうとさうちちやうくんと女よとらうりお清さと
 りづーたりーまきせうくんと女れーてぬら
 ぶき残路くあんしせんまらうふやなるう
 とこーまきせきり

